公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2015年3月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会③）・・・1
◆探鳥会保険集計結果
（2015年1月分）　・・・・・・・・・・10
◆普及室からのお知らせ
・新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み・・・・・・12
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・14
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・15
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・15

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会③）

先月14日の横浜・山下公園での開催で、今年度関東ブロック所属の支部で企画された全14回の「会員を増やすための探鳥会」が終了しました。

合計380名の方にご参加いただき、94名にお試し入会いただきました。

表1.2014年度「会員を増やすための探鳥会」結果一覧

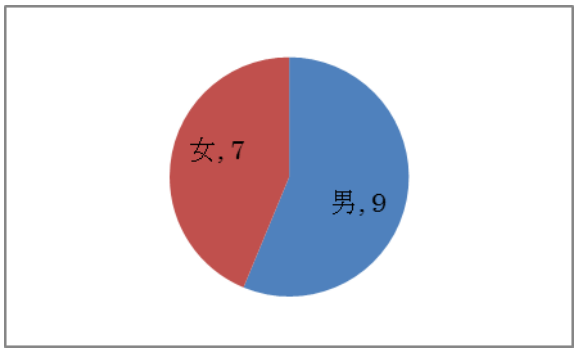
開催日 開催場所（担当支部）	全参加者数	非会員数（全参加者に占める割合）	未経験者数（全参加者に占める割合）	お試し入会者数（非会員参加者に占める割合）
11/9　桜山（茨城県）	11名	9名（8割）	7名（6割）	4名[*1]（4割）
11/15 日比谷公園（東京）	20名	18名（9割）	14名（7割）	7名（4割）
11/16 見沼自然公園（埼玉）	13名	10名（8割）	12名（9割）	1名（1割）
11/24 代々木公園（東京）	17名	10名（6割）	5名（3割）	5名（5割）
11/29 猿江恩賜公園（東京）	16名	11名（7割）	8名（5割）	3名（3割）
11/30 代々木公園（東京）	15名	5名（3割）	2名（1割）	0名（−）
11/30 庚申山総合公園（群馬）	15名	14名（9割）	11名（7割）	10名（7割）
11/30 中央公園（栃木）	29名	28名（10割）	24名（8割）	8名[*2]（3割）
12/6 昭和記念公園（奥多摩支部）	88名	73名（8割）	56名（6割）	30名（4割）
12/6 千葉公園（千葉県）	14名	13名（9割）	11名（8割）	4名（3割）
12/6 江戸川（千葉県）	16名	13名（8割）	10名（6割）	3名（2割）
12/14 霞ケ浦総合公園（茨城県）	7名	7名（10割）	5名（7割）	0名（−）
1/17 鶴見川（神奈川支部）	64名	56名（9割）	47名（7割）	6名（1割）
2/14 山下公園（神奈川支部）	55名	47名（9割）	27名（5割）	13名（3割）
[*1]後日入会者1名を含む				
[*2]正式入会者1名を含む				

12月号、1月号に続き、千葉県主催の江戸川（12/6）、茨城県主催の霞ケ浦総合公園（12/14）、神奈川支部主催の鶴見川（1/17）、山下公園（2/14）の様子をご紹介します。

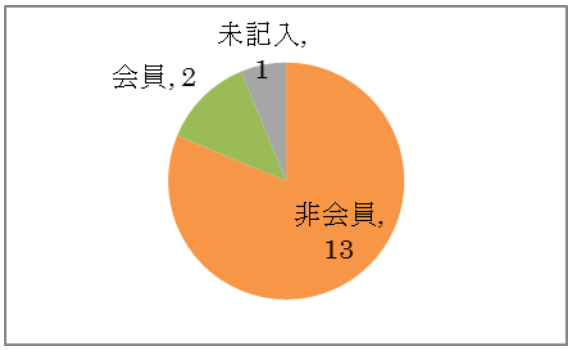
『江戸川ビギナーズ探鳥会』（千葉県）

【日　時】2014 年 12 月６日（土）９時～11 時 30 分
【天　候】晴れ
【場　所】江戸川（千葉県松戸市）
【参加者】16 名　【リーダー】11 名　【お試し入会者】３名（非会員参加者の２割）
【広　報】
＜新聞＞2 社（11/28 毎日新聞、12/１定年時代）
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter
＜メール＞一斉メール送信（11/13、14 に、関東、山梨、静岡在住の 8,692 名に送信）

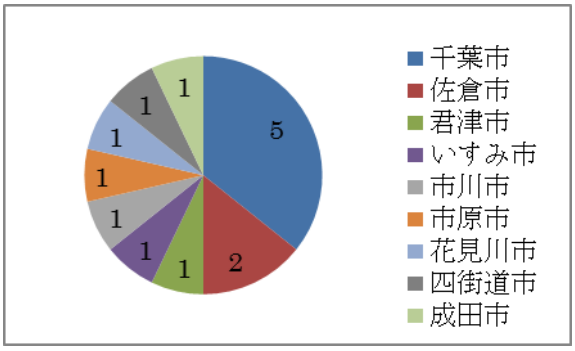
・性別



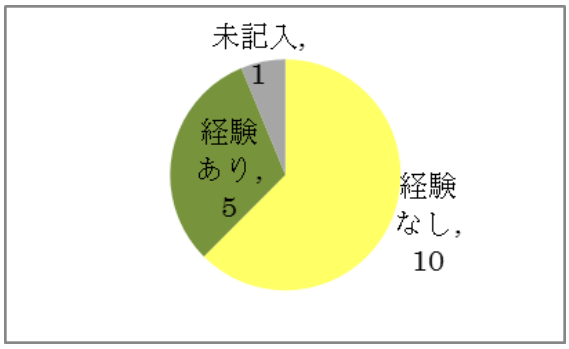
・会員／非会員



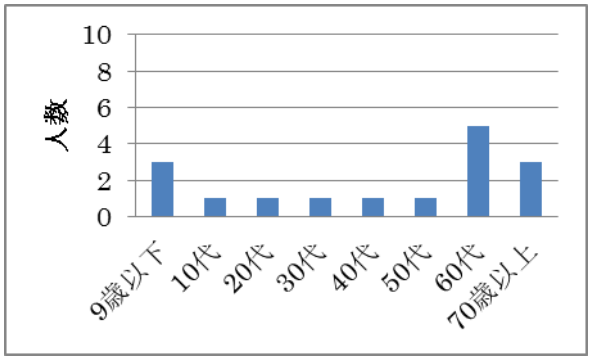
・お住まい



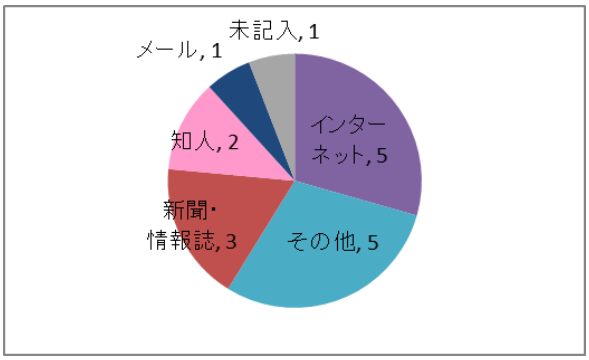
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

開催場所は千葉県松戸市の江戸川河川敷で、集合場所のJR松戸駅からは徒歩５分ほどの場所でした。

参加者の方は、小学生の親子連れから中高年まで、さまざまな年齢の方がおられましたが、バードウォッチングに興味はあるけど初めて、または始めて間もないという方ばかりでした。

■探鳥会の様子

オギやヨシの草地ではジョウビタキやモズ、堤防の草地ではタヒバリやハクセキレイ、水路ではバンやカイツブリ、上空にはミサゴと、次々と野鳥が現れ、参加者全員が、同じように観察することができました。

日本野鳥の会千葉県は、この場所で、普段から初心者向けの探鳥会を定期的に開催しているとのことで、リーダーの方たちも、初心者の方に楽しんでもらうための工夫をいろいろとされていました。例えば、スズメ、カラス、ハトなど誰でも観察しやすい野鳥を素材にしたクイズをワークシートにしたり、A4 サイズの野鳥の写真をクリアファイルに入れておき、実際に野鳥を見ながら特徴を説明したりしていました。

▲写真を使って観察した野鳥の特徴を解説

また、最後のまとめでも、リーダーが一方的に話すのではなく、参加者から印象に残った野鳥をあげてもらい、その鳥について解説しながら進めていました。また、全員が確実に見られた種類を取り上げており、参加者が興味を持って話を聞くことができると思いました。

▲まとめの様子。ワークシートのクイズの答え合わせをしながらふりかえり

■参加者の声

60 代くらいの男性：以前この場所の初心者向け探鳥会に参加して良かったので、また来ました。庭に来る鳥にも興味がわきました。

小学生の男の子とお母さん：いろいろな鳥が見られてとても楽しかったです。また参加します。

■まとめ

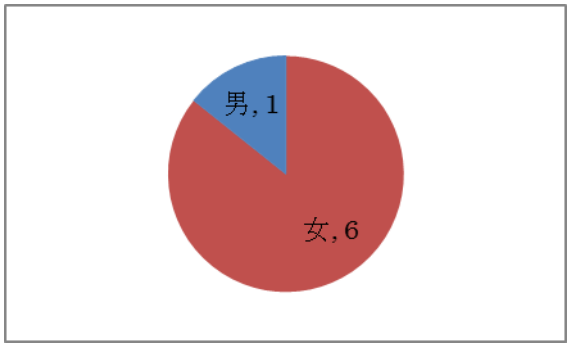
事前の打ち合わせの時に、リーダーの方がまず、「参加者の方に、とにかくたくさんの鳥を見たなあ、と思ってもらえるようにしよう。薮の中の（珍しい）鳥よりも、目の前にいるスズメを見てもらおう」とおっしゃっていました。参加者に探鳥会を楽しんでもらうにはどうしたら良いか、そんな配慮が全体にみられる会でした。

（普及室／江面康子）

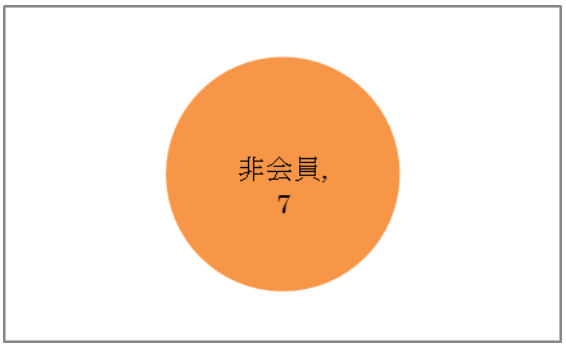
『霞ヶ浦総合公園ビギナーズ探鳥会』（茨城県）

【日　時】2014 年 12 月 14 日（日）９時～11 時 30 分
【天　候】晴れ
【場　所】霞ケ浦総合公園（茨城県土浦市）
【参加者】７名　【リーダー】４名　【お試し入会者】なし
【広　報】
＜新聞＞３社（朝日新聞、東京新聞、茨城新聞）
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、普及教育グループブログ／Twitter
＜メール＞一斉メール送信（11/13、14 に、関東、山梨、静岡在住の 8,692 名に送信）

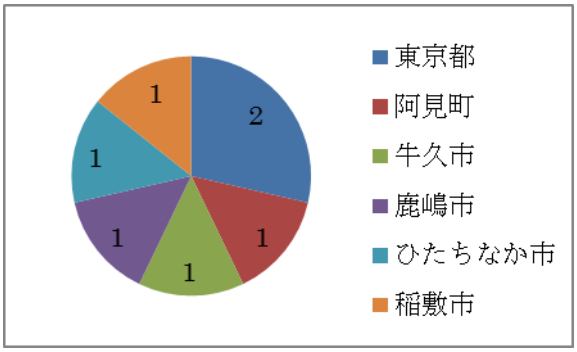
・性別



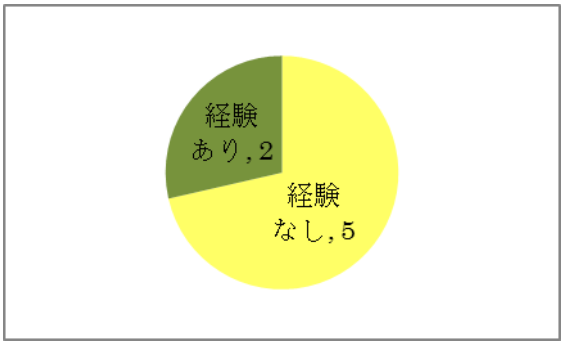
・会員／非会員



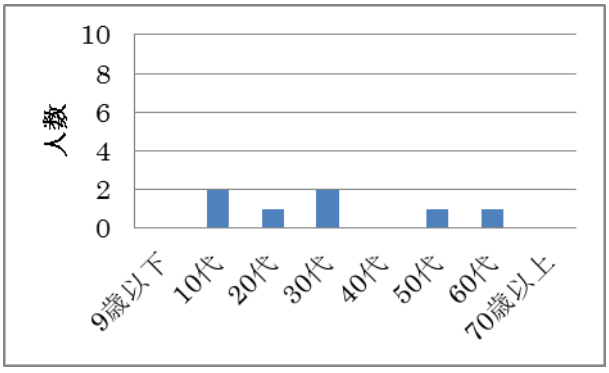
・お住まい



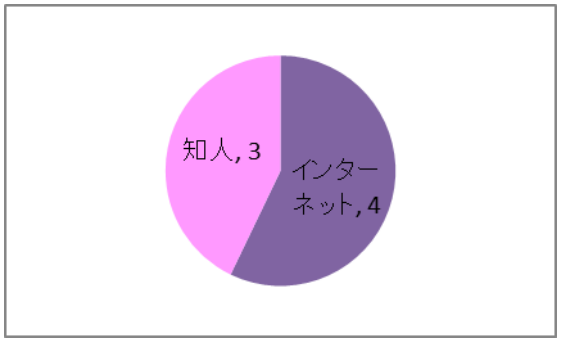
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

茨城県土浦市にある霞ケ浦総合公園は、国内第２位の面積を持つ湖「霞ヶ浦」の湖畔にあります。主にスポーツレクリエーションの場として設置された、県営の公園です。

当日は、10 代～30 代の女性を中心に７名の非会員の方が集まりました。

メインリーダーを残りのリーダーがサポートしながら、集合場所の駐車場から公園をほぼ一周するコースを進みました。

■探鳥会の様子

良く晴れた朝、車や電車を利用して参加者が集まってきました。

「本部と日本野鳥の会茨城県が合同で開催する、初めてバードウォッチングを楽しみたいという方への催しです。」

とあいさつがあり、リーダーの紹介、コースの説明、双眼鏡の使い方の確認をして探鳥会が始まりました。

▲公園内での観察の様子

「鳥に詳しくなりたい！」

という参加者の意気込みを受け、リーダーは、

「バードウォッチングは慣れですので、誰でも分かるようになりますよ。」

と言いながら、バードウォッチングのコツを伝えていました。

公園でカワラヒワが見られたときには、

「小鳥は尾羽の形を覚えると、夕方でも、シルエットで判断できるようになりますよ。カワラヒワなどアトリの仲間は M 字になっています。」

と話し、ハトについては、

「ハトは飛び方でも区別ができます。カワラバトはひらひらした感じですが、キジバトは切るようにパッパッと飛びます。」

と伝えていました。

公園内では、地面でエサをついばんでいるシメやアカハラ、霞ヶ浦では、カモ類やカワウ、ミサゴ、カワセミなどが観察でき、最後の鳥合わせで 38 種を確認しました。お試し入会は後日でも入会可能なように振込用紙も渡されていました。

■参加者の声

専門学校生の女性：茨城から東京にある自然環境や野生動物保護に関わる専門学校に通っています。鳥に詳しくなりたくて、東京に住む同級生と参加しました。

30 代女性：鳥が好きですが、普段周りに鳥の話をできる人がいません。今日は話ができて楽しかったです。もっと初心者向けの探鳥会が茨城で開催されると嬉しいです。

■まとめ

シルエットでの野鳥の見分け方や種に特徴的な行動の紹介など、「野鳥について知りたい」という参加者に合わせた解説が見事でした。

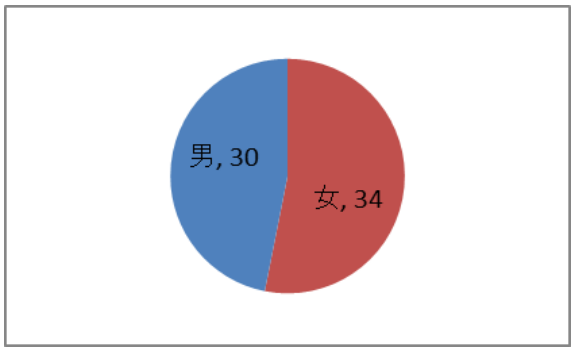
「楽しいことが基本ですので、質問も受けながら進めたいと思います」と話す、気さくで知識豊富なリーダーに、参加者はいろんな質問をしながら楽しんでいました。

（普及室／堀本理華）

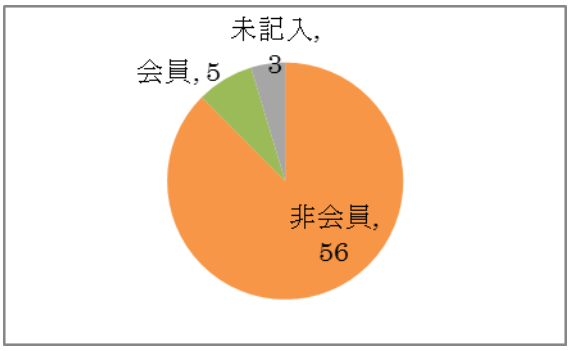
『バードウォッチング入門 in 鶴見川』（神奈川支部）

【日　時】2015 年 1 月 17 日（土）8 時 15 分～11 時 45 分
【天　候】晴れ
【場　所】鶴見川（神奈川県横浜市）
【参加者】64 名　【リーダー】17 名　【お試し入会者】6 名（非会員参加者の 1 割）
【広　報】※後援：横浜市環境創造局
＜新聞・情報誌＞2 社（朝日新聞、定年時代）　＜ラジオ＞1 社（12／28 FM ヨコハマ）
＜インターネット＞財団 HP、横浜市環境創造局 Twitter
＜メール＞一斉メール送信（12/17、１９に、関東、山梨、静岡在住の 8,626 名に送信）
＜パンフレット＞探鳥会のご案内（全国約 19,000 名に送付）
＜チラシ＞横浜市内の全図書館、長津田地区センター、四季の森公園管理事務所、新治里山管理センター、横浜ズーラシア、金沢動物園、横浜自然観察の森

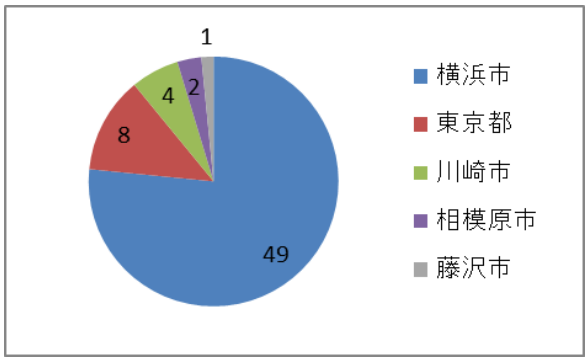
・性別



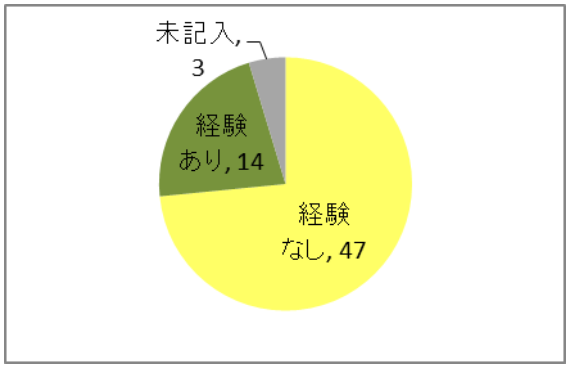
・会員／非会員



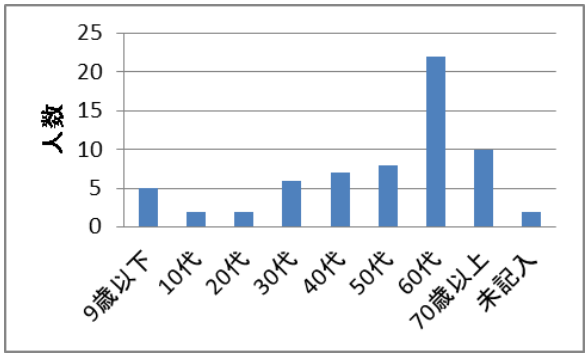
・お住まい



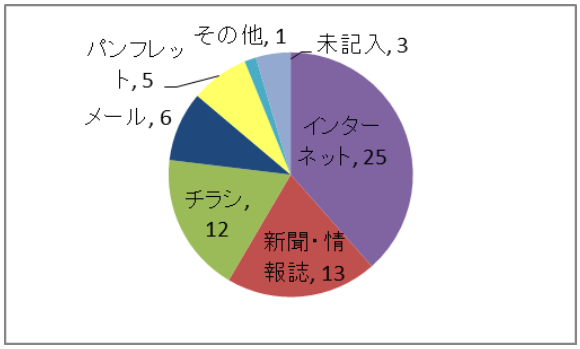
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

鶴見川は東京都町田市を源流とし、神奈川県横浜市の河口から東京湾に注いでいます。探鳥会が開催された鶴見川中流域には、横浜市最大の運動公園「新横浜公園」があります。

先着 30 名の事前申し込み制で行われた探鳥会でしたが、申し込みが多く、約 70 名を受け付けて、開催されました。各班に約３名のリーダーが入るかたちで、親子班を含む５班に分かれて行動しました。

集合場所の小机駅から、田畑を通って新横浜公園に入り、鶴見川沿いを観察しました。

■探鳥会の様子

集合場所の小机駅には、８時頃から少しずつ参加者が集まりだしました。集まった順に受け付けをし、14 名になったところから一班になり、順次探鳥会が始まりました。私は 50 代～60 代の男性が中心の先頭グループに加わりました。

支部では、鶴見川で観察されやすい野鳥約 40 種類の写真を載せたプリント用意しており、参加者はそれを手に外へ向かいました。

駅を出ると田畑が広がり、キジバトやスズメ、ヒヨドリ、ハクセキレイ、ツグミなどがすぐに見られ、双眼鏡の使い方を確認しながら、観察しました。

鶴見川に到着して、観察を開始。一見、野鳥の姿がないように思えましたが、よく見ると川岸近くにコガモやオカヨシガモが休んでいました。

「何の鳥か分かりますか。」

というリーダーの声に、参加者は、プリントの写真と実物を見比べ、リーダーと会話をしながら楽しんでいました。

川沿いを進むと、岸辺で動かないアオサギや「追い出し猟」をするコサギ、陸にあがった 50 羽ほどのオオバンの群れなどが見られ、一同大盛り上がりでした。またリーダーは、対岸の木で休むノスリを見つけて、望遠鏡に入れて紹介し、参加者は

「自分１人では気が付かない。」

と感心しながら観察していました。

▲鶴見川での観察の様子

■参加者の声

７０歳以上の男性：普及室からのメール案内を見て東京都から参加しました。家の周りで鳥を見たりしますが、１人で見ていても面白くないので、参加してみました。

６０代の男性：夫婦で参加しました。ノルディックウォーキングをしていて、毎週約 8km 歩いています。今日は野鳥をたくさん教わったので、ウォーキングの休憩時間の楽しみができました。

■まとめ

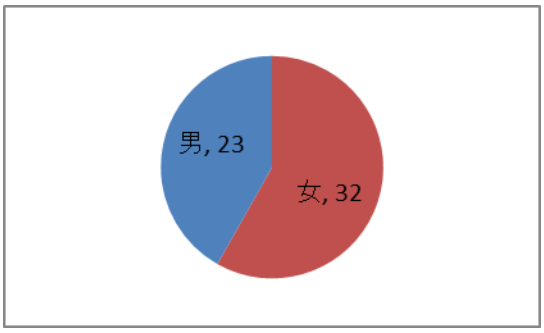
支部で横浜市の後援をもらったことで、市の施設へチラシを設置することや市役所の twitter で紹介をいただくことが可能になり、事前申し込み制というハードルがある中、非常に多くの方に集まっていただくことができました。当日は、親子班も設けて、短いコースで対応し、ジュニア会員（神奈川支部独自の会員制度）に申し込んでくださった方もいらっしゃいました。また、２月の山下公園の探鳥会に参加し、そこでお試し入会してくださった方もおり、多くの方に来ていただいたことの成果を感じました。

（普及室／堀本理華）

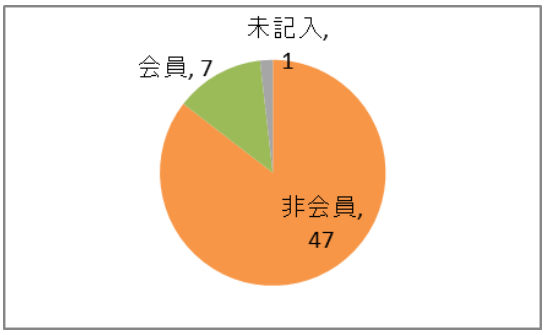
『バードウォッチング入門 in 山下公園』（神奈川支部）

【日　時】2015 年 2 月 14 日（土）9 時 30 分～10 時 30 分、11 時～12 時、13時～14 時
【天　候】晴れ【場　所】山下公園（神奈川県横浜市）
【参加者】55 名　【リーダー】9名　【お試し入会者】13 名（非会員参加者の3割）
【広　報】※後援：横浜市環境創造局
＜ラジオ＞1 社（2／8 FM ヨコハマ）
＜インターネット＞財団 HP、財団 Facebook、普及教育グループブログ、横浜市環境創造局 Twitter
＜メール＞一斉メール送信（1/30、2/2 に、関東、山梨、静岡在住の 8,712 名に送信）
＜パンフレット＞探鳥会のご案内（全国約 19,000 名に送付）
＜チラシ＞横浜市内の全図書館、長津田地区センター、四季の森公園管理事務所、新治里山管理センター、横浜ズーラシア、金沢動物園、横浜自然観察の森

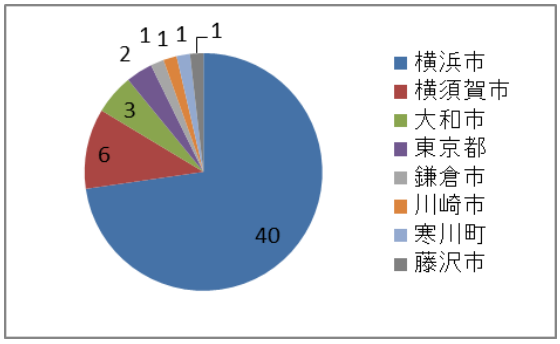
・性別



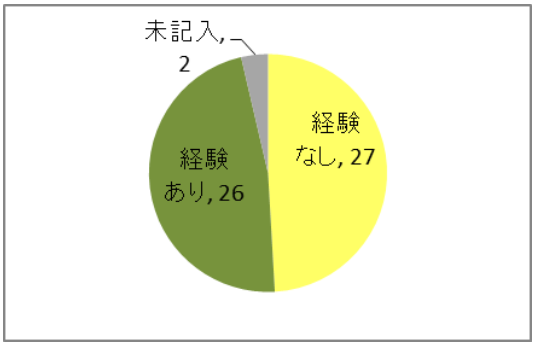
・会員／非会員



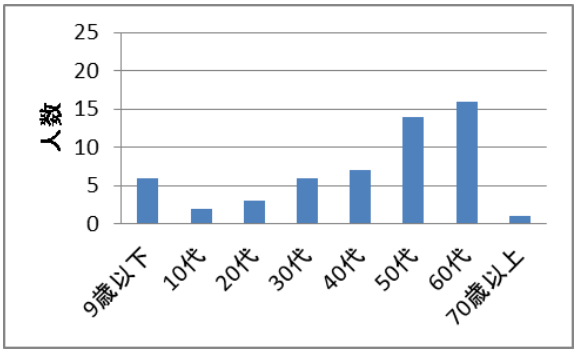
・お住まい



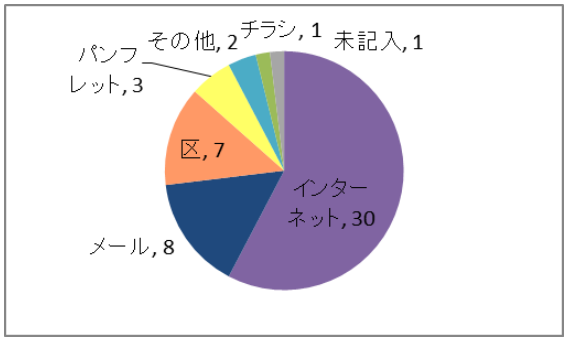
・バードウォッチング経験



・年齢構成



・何で知ったか



■探鳥会概要

山下公園は横浜で最も有名な公園であり、横浜観光の定番スポットとして人気の場所です。約 1km の長さで海岸に面した園内には、芝生や記念碑のほか、海への眺望を楽しめるベンチなどがあります。

当日は、1 回 1 時間の観察会を 3 回行いました。家族連れや友達同士、ご夫婦など各回約 20 名の参加者が集まりました。2～3 グループをつくり、各グループ約 2 名のリーダーが案内に付きました。

集合場所の「赤い靴はいてた女の子像」から、「海→芝生」と観察するグループと「芝生→海」と観察するグループに分かれて観察しました。

▲海鳥の観察の様子

■探鳥会の様子

風が多少あるものの良く晴れ、園内は、犬の散歩をする人やギターを弾く人、ベンチでのんびりする人など思い思いの休日を楽しむ人で賑わっていました。

集合場所では、リーダーが笑顔で元気に出迎えていました。開始の挨拶では、

「赤い靴履いてきましたか！？履いている人が参加できますよ。」

との冗談から始まり、日本野鳥の会が「紅白歌合戦で勝敗を数えていた」だけの団体ではなく、「国や行政にも意見できる科学データと優秀な人材を有する日本最大の環境保護団体」であることをアピールし、

「野鳥探しに出かけましょう！」

とワクワク感たっぷりに送りだしていました。

海には、約 100 羽のスズガモの群れがおり、嘴を羽毛に入れて寝ている姿や、潜って餌を探す姿が観察できました。また、ユリカモメやセグロカモメが飛んで来たり、ハジロカイツブリがモグラたたきのように顔を出したりし、参加者を楽しませてくれました。芝生では、餌を探すツグミやハクセキレイ、並状に飛ぶヒヨドリなどが観察できました。

1 時間の観察を終えると、集合場所で待っていたリーダーが明るく出迎えてくれました。観察した約 10 種の鳥を確認後、お試し入会の案内となりました。

「今日は特別にひな鳥会員を募集しています！半年間お届けする神奈川支部の情報誌には、野鳥のことや環境保護のことはもちろん、どんなところでどんな観察会があるかが載っています。会費は 1000 円。お申し込みの方はこちらに残ってくださいね。」

最後にはバレンタインデーのチョコレートのプレゼントもあり、皆さん満足そうに帰って行きました。

■参加者の声

60 代くらいの女性：庭に来る鳥を見ていましたが、ときどき分からない鳥がいて、教えてもらいたいと思っていました。たまたま HP で初心者向けのバードウォッチングを見つけて、自分にぴったりだと思って参加しました。ミサゴが見られて満足しました。

50 代の女性：ブンチョウを飼っており、小鳥が好きです。野鳥観察は初めてでしたが、とても楽しかったです。

■まとめ

観光スポットで 1 時間の観察会でしたが、初めての方には、身近な鳥を中心に 1 時間の観察で、十分楽しんでいただけるのだなと実感しました。また、支部の旗を見た来園者から、「野鳥の会だ」と声が聞こえたり、「時間があったら参加したい」と声をかけてくれる方がいたりと、利用者の多い場所で開催することは、それだけで当会をアピールできる機会となるのだと思いました。

（普及室／堀本理華）

◆探鳥会保険集計結果（2015 年 1 月分）

1 月は 66 支部からご報告をいただき、計 264 回の探鳥会が開催され、のべ 6,822 人が参加されました。

表 2.1 月の探鳥会保険集計結果（2015 年 2 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	13	2	1	16
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	1	1	2	2	5
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	0	0	0	0	0
滝川支部	0	0	0	0	0
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	56	18	4	78
小樽支部	2	6	3	2	11
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	1	15	3	3	21
函館支部	−	−	−	−	−
道南桧山	1	10	6	2	18
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	3	14	2	3	19
秋田県支部	3	32	1	3	36
山形県支部	2	26	11	4	41
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	2	20	6	7	33
北上支部	1	13	1	2	16
宮城県支部	6	62	18	13	93
ふくしま	1	23	0	2	25
郡山支部	1	12	0	3	15
二本松	2	10	0	3	13
白河支部	0	0	0	0	0
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	0	0	0	0	0
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	13	140	98	22	260
栃木	−	−	−	−	−
群馬	1	16	2	4	22
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	18	465	105	127	697
千葉県	11	179	73	47	299
東京	14	637	8	81	726
奥多摩支部	16	220	24	42	286
神奈川支部	10	187	69	37	293
新潟県	−	−	−	−	−
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	40	6	2	48
石川	2	46	7	6	59
福井県	1	6	2	1	9
長野支部	2	32	3	4	39
軽井沢支部	1	14	12	1	27
諏訪	2	19	25	4	48
木曽支部	–	–	–	–	–
伊那谷支部	–	–	–	–	–
甲府支部	2	43	10	4	57
富士山麓支部	1	8	3	2	13
東富士	–	–	–	–	–
沼津支部	1	9	0	2	11
南富士支部	2	70	16	3	89
南伊豆	1	8	0	2	10
静岡支部	3	25	50	6	81
遠江	4	102	26	17	145
愛知県支部	15	184	160	40	384
岐阜	–	–	–	–	–
三重	5	31	38	8	77
奈良支部	4	105	0	8	113
和歌山県支部	0	0	0	0	0
滋賀	4	37	35	8	80
京都支部	8	142	75	19	236
大阪支部	22	436	98	93	627
ひょうご	7	120	135	25	280
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	1	30	2	1	33
島根県支部	2	30	5	2	37
岡山県支部	6	124	40	19	183
広島県支部	2	32	16	2	50
山口県支部	8	47	36	8	91
香川県支部	2	76	14	2	92
徳島県支部	5	51	9	5	65
高知支部	1	7	25	1	33
愛媛	5	62	48	9	119
北九州	4	56	4	4	64
福岡支部	6	125	18	15	158
筑豊支部	2	34	4	2	40
筑後支部	4	34	5	4	43
佐賀県支部	4	57	13	4	74
長崎県支部	–	–	–	–	–
熊本県支部	4	64	15	5	84
大分県支部	1	23	7	1	31
宮崎県支部	2	25	44	4	73
鹿児島	4	54	29	13	96
やんばる支部	–	–	–	–	–
石垣島支部	–	–	–	–	–
西表支部	–	–	–	–	–
全国	264	4,565	1,487	770	6,822

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■新たな『フィールドガイド日本の野鳥』に向けて増補改訂新版の取り組み■

新版は印刷の遅れもありましたが、すでに文字原稿はチェックを済ませました。今回は、そこで判断した最終的な修正箇所の事例を紹介致します。

◇亜種？別種？

コガモの亜種とされるアメリカコガモは、典型的な雄であれば亜種コガモと識別できます（胸側や肩羽の白線の有無がポイント）。『フィールドガイド日本の野鳥』では高野がアメリカコガモ雄の図版を描いていますが、解説で「雌の識別点は知られていない」と書かれていました。ところが、田仲謙介さんから「海外の雑誌などで雌の識別点がいくつか検討されているようなので、『識別点は知られていない』はおかしい」という指摘がありました。それらを精査、検討する余裕はありませんでしたが、急遽、「雌の識別は難しい」と改めることにしました。

コガモとアメリカコガモは、新版で科ごとの種数の参考にした IOC のリスト（バージョン4,3）では別種とされています。新版の「分類と掲載順」という項目で、目録７版と IOC リストの分類が違う例としてキジとコウライキジ（目録７版では亜種、IOC のリストでは別種）を紹介していましたが、最終的にはコガモとアメリカコガモを例示する文章に差し替えました。文字原稿の最終チェックの際、「日本の野鳥」という項目の中で分類の流動性に鑑み、日本固有種の解説の中で「日本に分布するキジと大陸系のキジを別種とする説もあり、それに従うならキジは日本固有種になる」と書いていたことに気づいたためです。分類に諸説ある例としてキジを２回出すより、別情報としてコガモの分類の違いを例とすることにした次第です。

◇ヨシキリ類？ヨシキリ科？

オオヨシキリの解説文に「ヨシキリ類の特徴として、嘴の付け根に口ひげ（細い剛毛状の羽毛）が発達している」と書かれていました。増補改訂版まではオオヨシキリはウグイス科に分類されていたので、ウグイス科の中のヨシキリ類という意味で問題なかったのですが、目録７版ではオオヨシキリはヨシキリ科とされました。となると、口ひげはヨシキリ科の特徴と言ってよいのかでしょうか？

ヨシキリ科にどの属や種が含まれるか？によって異なる可能性はありますが、渡部良樹さんに海外の文献なども調べてもらった結果・・・Helm Identification Guides Reed and Bush Warblers などの解説や写真を見た範囲では、ヨシキリ科のいずれの種にも口ひげがあるようです。ただし、オオヨシキリのように良く発達しているかどうかというと微妙で、ウタイムシクイ属（*Hippolais*）については口ひげが短い、ヒメウタイムシクイ属（*Iduna*）については、短くて細いと書かれています。ハシブトオオヨシキリは記述がよく分からなかったのですが、写真で見る限りでは口ひげがあるようです。その他のヨシキリ科の各属についても、おそらく口ひげは多少なりともあるようですが・・・最終的には「発達している」という高野の解説を活かすのならヨシキリ科ではなく、ヨシキリ属（*Acrocephalus*）とした方が良いという判断に至りました。

◇検討中とは？

新版では目録７版に沿った和名のリストを作成して、亜種もすべて記すことにしました。目録７版には「外来種・亜種」と「検討中の種・亜種」もありますが、最終段階で「検討中の種・亜種」はリストにしなくてもよいのでは？という意見をいただきました。すでに発行されている図鑑などで目録７版の「検討中の種・亜種」の和名をそのまま紹介しているものもありますが、誤解や混乱があるかも知れません。

実際の目録と同じように学名も併記すれば、学名から種なのか？亜種なのか？がわかるし、自分で調べることにも繋がります。ただ、新版のリストはすべての和名を記すことにして学名は省いてしまいました。これから学名を全部記すには時間もスペースもありません。そこで誤解や混乱を防ぐために、まず、目録における検討中とはどういうものかを但し書きで記すことにしました。

目録７版の「はじめに」には「飼育個体の逸出か自然分布かが判定できない場合や、観察情報が不十分で種の同定のためにさらに調査が

必要と判断される場合等は、目録本文への掲載を見送り、「Appendix B 検討中の種・亜種」としてまとめた。」「なお、和名は本来、目録本体に採用のさいに検討すべきものなので、「Appendix B 掲載検討中の種・亜種」に掲載している種の和名はすべてを妥当と判断したわけではない。」という文章があります。つまり、今後の検討によっては自然分布ではない、同定が間違っていたという判断がされて目録に掲載されないものや、掲載された場合でも違う名前になっているものがあり得るわけです。

ここでは新版のリストの「検討中の種・亜種」から、検討の対象が種なのか、亜種なのかをわかるようにした例を挙げておきましょう。亜種の場合は右に( )で種名を記すようにして、実際の印刷では本文の解説文と揃えて灰色の文字にする予定です。

●カモ目
オオマガン（マガン）
チュウカナダガン（カナダガン）
チュウショウカナダガン（シジュウカラガン）
●ハト目
カノコバト（カノコバト）

以下は異名が知られている場合、／で併記するようにした例です。

●カモ目
ホンケワタガモ／オオケワタガモ
●アマツバメ目
マレーアナツバメ／ジャワアナツバメ（ジャワアナツバメ）
●スズメ目
アムールムシクイ／ウスリームシクイ
バイカルオウギセッカ／シベリアムナフオウギセッカ

◇絶滅危惧種が記せない？

増補改訂版からリストにレッドリストの情報を加えるようにしました。前回、目録７版と環境省の指定とのずれは目録に沿わせると書きましたが、バードライフ・インターナショナルの指定とのずれでは、最終的に２種が表せなかったことを書いておきます。

バードライフ・インターナショナルでは *Pterodroma cervicalis* が VU(絶滅危惧Ⅱ類)指定ですが、目録７版では和名クビワオオシロハラミズナギドリとされ、「検討中」とされています。レッドリスト指定のマークは目録掲載種で表すので、バードライフ・インターナショナルの指定を表せませんでした。

Puffinus bannermani は EN（絶滅危惧ⅠB 類）の指定で、和名セグロミズナギドリという種と考えて目録掲載種としてレッドリスト指定を表したかったのですが、目録７版ではセグロミズナギドリは *Puffinus lherminieri*、日本で記録されているのは亜種セグロミズナギドリ *Puffinus lherminieri bannermani* とされています。目録７版に沿わせるという原則から、レッドリスト指定のマークを記すことは見送ることにしました。

（普及室／安西英明）

▲目録７版における新たな掲載種の図版を、担当された谷口高司さんの了解を得て紹介していますが、今回はヨーロッパムナグロ３点です（左２点夏羽、右１点冬羽）。増補改訂版で追記したアメリカムナグロに合わせて描いていただきました（ヨーロッパムナグロを紹介した写真図鑑も発行されましたが、重要な識別点である翼下面などをアメリカムナグロと比べやすい図鑑は日本語ではまだないと思われます）。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信３月号の電子メール版の購読者数は、先月から６名増えて８５１名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表３．探鳥会スタッフ通信３月号電子メール版の購読者数（2015 年３月 16 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	1
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	4	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	1
山形県支部	3	和歌山県支部	2
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	132
北上支部	2	大阪支部	21
宮城県支部	39	ひょうご	9
ふくしま	2	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	7
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	3
いわき支部	1	徳島県支部	5
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	12
群馬	24	筑豊支部	20
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	36	佐賀県支部	4
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	49	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	18	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	5	西表支部	2
		合計	851

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

東京では、シジュウカラやウグイスのさえずりが聞こえはじめ、桜の開花が待ち遠しい季節となりました。ツバメの姿が見られ始めた地域もあるでしょうか。

昨年から制作を進めておりました「ツバメのねぐらマップ」が無事完成し、先日支部事務局へお送りさせていただきました。今年の夏、ツバメのねぐら入り観察会などでご活用いただければ幸いです。

（普及室／堀本理華）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信　第24号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2015年3月19日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田3-9-23丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org